

# 一人ひとりの生徒が輝く運動部活動を求めて

## ― 市立習志野高校サッカー部の部内専門委員会の立ち上げとその取り組み ―

千葉県高体連サッカー専門部 習志野市立習志野  
高等学校 砂 金 伸

### 1. はじめに

#### 〈習志野市立習志野高等学校のプロフィール〉

1957 年、初代習志野市長の白鳥義三郎指導のもと創立。全日制・定時制課程にそれぞれ普通科と商業科の 2 学科を擁する。初代校長は山口久太（のちに日本体育協会副会長や八千代松陰中学・高校創立者）、男女共学・全日制過程普通科 18 学級・商業科 6 学級、現在の生徒数：男子 511 名・女子 452 名・計 963 名である。校訓・校是「雑草の如く逞しく」「文武両道」を掲げている。

部活動が盛んで、サッカー・野球・ボクシング・バレーボールの強豪校である。野球部は、かつては甲子園常連校で、公立高校ながら 1967 年と 1975 年の夏の甲子園で 2 度の全国制覇を成し遂げた。卒業生のなかには、東京ヤクルトスワローズ前監督の小川淳司や野球解説者の掛布雅之・谷沢健一などがいる。サッカー部は 1965 年と 1971 年の全国高校サッカー選手権や、1995 年のインターハイで全国制覇の経験がある。文化部では、吹奏楽部が全日本吹奏楽コンクールや全日本マーチングコンテスト等で連続出場を維持し歴代成績において全国上位 3 校に含まれる成績を残している。男子バスケットボール部は、インターハイで 1 回優勝。女子バスケットボール部は、2014 年のインターハイに 31 年ぶり 6 回目の出場をしている。ボクシング部は、1963・2007・2008 年の 3 度インターハイで総合優勝している。男子バレーボール部は、全国高等学校バレーボール選抜優勝大会で優勝 1 回、春高バレー（全国高等学校バレーボール選抜優勝大会 / 全日本バレーボール高等学校選手権大会）には 31 回出場している。体操部は、2013 年国際ジュニア個人総合優勝者を輩出し、高校総体等にも出場している。剣道部は、全国高校選抜剣道大会第 9 回大会優勝、第 6 回大会 3 位。柔道部は、高校総体 2 回出場、昭和 46 年全国 3 位、全国高等学校柔道選手権団体戦 5 回出場（第 36 回大会出場決定）等の実績を残している。

#### 〈サッカー部の現状〉

本校サッカー部は、昭和 32 年学校創立と共に創部。全国高校サッカー選手権大会出場 15 回・優勝 2 回、全国高校総体（インターハイ）出場 17 回・優勝 1 回を誇る歴史を持つ。卒業生も各分野に著名な人材を輩出しており、日本代表選手を含め現役プロサッカー選手も 10 名を超える。昨年も千葉県高校総体で優勝し、2014 南関東インターハイ（山梨）に出場した。平成 27 年 10 月末現在の部員数は、3 年 49 名・2 年 41 名・1 年 56 名：合計 146 名（3 年生部員はこの時点で 10 名ほど受験に向けて引退している）である。

平素は、A1・A2・B1・B2 の 4 カテゴリーに分け、1 チーム 30 ～ 40 名位の編成となっている。A1 は、いわゆるトップチームで、県リーグ 1 部と高体連主催の公式戦に出場する。A2 は、県リーグ 2 部に所属し、そこでの活躍によってトップチームに上げられる。B1・B2 はいわゆる育成型のチームであるが、プライベートリーグ（関東レベル・千葉県レベル）などで力を磨いている。使用グラウンドは、正規のピッチが 1 面あるが、大所帯な為 OFF を日割りで入替えたり、校外施設を借用しながら活動している。

### 2. 専門委員会の立ち上げについて

毎年 150 名を超える部員を抱え、「質の高いサッカー」を目指しトレーニングに励んでいるが、部内での厳しい競争の中では、「挫折」「夢破れる」「モチベーションが保てない」選手が多数存在することも否めない。【強化】と【育成】という 2 つの、一見して相交えない本校サッカー部の大きな【課題】を

解決させる為の方法…は何か？このようなチーム状況の中、レギュラー以外の選手（生徒）達が「for TheTeam」の精神で帰属意識を持ちながら、活き活きと日頃の練習・試合活動を行える方法はないかと模索した末、部内に専門委員会を設置し、活動させてみてはどうかと考えた。（学校活動の各 HR に、HR 役員・生徒会委員を配置するような生徒主体の組織を…）

私が、現任校に着任したのは平成 24 年 4 月、スタッフで数回に渡りミーティングを繰り返し、平成 25 年 11 月に、当時の 2 年生の代が新人大会に向けた新チームを立ち上げるためのミーティングに於いて別紙のプリントを配布し、私（監督）が趣旨の説明を行いながら選手（生徒）達の反応・意見を聴きたいうえで、7つの専門委員会を立ち上げ活動をスタートさせた。

### 3. 7つの専門委員会

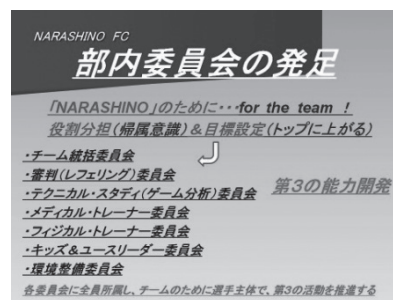
- ①チーム・マネジメント委員会（チーム統括）
- ②レフェリング委員会（審判）
- ③テクニカル・スタディ委員会（TSG・技術戦術分析）
- ④メディカル・トレーナーズ委員会（医科学）
- ⑤フィジカル・トレーナーズ委員会（フィジカル・トレーニング）
- ⑥キッズ & ユースリーダー委員会（キッズコミット & 障害者サッカー）
- ⑦エンヴァイロメンタル・プレパレーション委員会（環境整備）

### 4. 所属・活動形態

- ・7つの専門委員会のいずれか一つに、全員が所属し活動する。
- ・リーダー性が高い者を各スタッフから指名する。
- ・その後、本人の希望を基に編成するが、能力 / 適性も考慮し、ある程度均等になるように調整する。
- ・各委員会 20 名前後で構成する。
- ・季節的な活動・日常的な活動部署もあるが、基本的に学期に 1 回は活動する。
- ・TOP or B チーム or 1 年とか、関係なく、チーム & 選手に対するサービス業務や業務画  
→実践・広報活動・常に新しい試みを話し合い実践に向け準備する。
- ・各委員会で決定したことは、少しずつで良いから、実践に向け計画的に行う。
- ・各顧問（コーチ）と相談しながら、選手（生徒）主体で活動する。
- ・リーダーは、業務分担・役割に大きな「差」が出ないように配慮する。
- ・学期に 1 回は「活動報告会」を開催し、各委員会の活動を理解する。
- ・活動報告会に当たっては、PC 機器を使用し、プレゼンテーションソフトや画像・映像等も使いながら（生徒のアイデア大切）、簡潔かつ明瞭に伝える。

## 5. 実践発表（活動報告会での生徒のプレゼンテーション例）

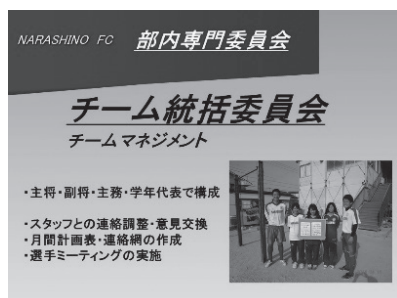
下記のように、選手（生徒）達が各学期の委員会活動の様子を報告し合う機会を設けています。



### 〈活動報告会〉

|         |       |          |       |          |       |           |
|---------|-------|----------|-------|----------|-------|-----------|
| 平成 26 年 | 第 1 回 | 3 月 24 日 | 第 2 回 | 7 月 18 日 | 第 3 回 | 12 月 15 日 |
| 平成 27 年 | 第 4 回 | 3 月 24 日 | 第 5 回 | 7 月 18 日 | 第 6 回 | 12 月 21 日 |

### 〈チームマネジメント委員会（チーム統括）の活動内容〉



～活動目的～

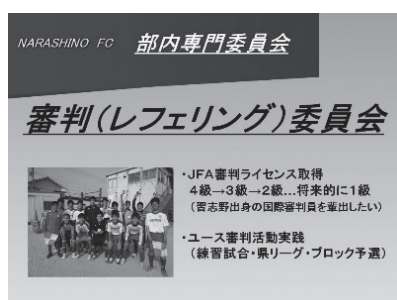
- ・監督・コーチ・スタッフとの連絡調整・意見交換
- ・月間計画表の作成
- ・ゲーム & チーム分析（TSG 以外）
- ・選手ミーティングの実施
- ・選手連絡網の作成配布
- ・連絡指示系統の徹底 など

～活動の実際～

各学年マネージャー・主将・副主将・で構成している。私（監督）が、直接監修。平素は、担当スタッフとの連絡調整と選手間ミーティングを主導している。また、月間予定表を Excel で作成し配布している。どの委員会にも属さない問題等（雑用に近いが）への対応や、選手全員への周知・連絡指示系統の徹底係として実働している。

活動報告では、PPT ソフトを利用し、活動報告と共に現在までの反省点をまとめて発表。また、「リーグ戦結果」の分析と「その対策」についてプレゼンした。

### 〈レフェリング委員会（審判）の活動内容〉



～活動目的～

- ・JFA 審判ライセンス取得  
(4 級→3 級→2 級……将来的に 1 級 (J リーグ)・国際)
- ・ユース審判活動 (練習試合・公式戦・ブロック予選)
- ・ルールに関する講習会の実施・ルールに関する小冊子の作成配布

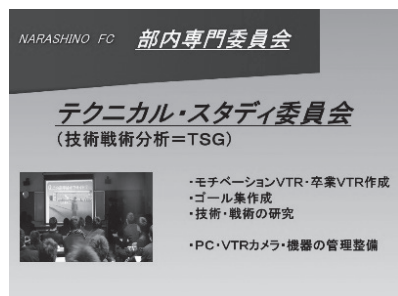
～活動の実際～

委員会生徒に関わらず、部員全員が JFA4 級ライセンスを取得している。平素の練習試合・習志野市中学校大会（公式戦）・高円宮杯 U18 千葉（公式戦）・知的障害者大会・高円宮杯 U15 千葉県予選等の依頼のあった審判活動を土日、

長期休業中に担当している。派遣は、委員会メンバーが中心となるが、平素に自分の試合・大会もあるため、出場のバランスなども考慮し、委員でない選手も審判活動に当たっている。

報告会では、活動報告と共に、各大会前に自前の審判講習会を開催した際の報告をプレゼンした。

#### 〈テクニカル・スタディ委員会（TSG）の活動内容〉



～活動目的～

- ・ゲーム分析（スカウティング技術の向上・VTRの作成）
- ・モチベーションVTR・卒業VTR・ゴール集等の作成
- ・技術 & 戦術の研究 PC・VTRカメラ等の管理整備

～活動の実際～

高円宮杯 U18 リーグ千葉 1 部・2 部…18 試合× 2、カップ戦（関東予選・IH 予選・選手権）…計約 15 試合の先乗りスカウティング VTR を作成している。また、各カップ戦準々決勝からモチベーション VTR も作成し、代表選手のメンタルの後押しをしている。昨年度末には、貯めた映像を使い「卒業 VTR」をも作成し、卒業生を送った。顧問指導のもと「TSG 合宿」を行い委員全員の編集技術の向上を図っている。

#### 〈メディカル・トレーナーズ委員会（医科学）の活動内容〉



～活動目的～

- ・テーピング施術の研修（平素の施術）
- ・応急処置の研修（平素の実践）
- ・サッカー医科学・マルチトレーニングの研究・小冊子の作成配布
- ・なのはな整骨院との連絡調整・情報収集交換 など

～活動の実際～

本校トレーナー・縄田健司氏（本校卒業生、なのはな整骨院院長、国体千葉県選抜トレーナー）によるテーピング施術講習会（足関節・膝・肉離れ）を実施し、委員会内で練習。同氏による施術テストに合格した者が、平素のトレーニング前や試合時のテーピングを実施できるシステムを構築し、現在に至る。委員会主導で、RICE 処置の講習会や平素のアイシング法を模造紙に書き出し、部室内に掲載している。

活動報告会では、PPT を使用し、それまでの活動内容の報告と今後の計画、テーピングの実践画像、バンテージの撒き方の動画でその方法と重要性を示したり、「熱中症」の分類と「その対策」についてプレゼンした。

#### 〈フィジカル・トレーナーズ委員会（フィジカル・トレーニング）の活動内容〉



～活動目的～

- ・フィジカル・トレーニングの研究
- ・トレーニングの実践・計画表（チーム・個人）作成
- ・フィジカル・フィットネスに関する小冊子の作成配布
- ・フィールドテストリーダー
- ・トレーニング用具（フーエルト & マシールム）の管理・点検整備 など

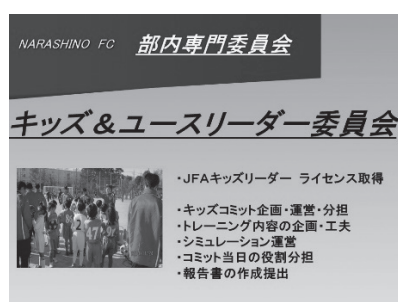
～活動の実際～

走力アップや体幹のトレーニングは、各カテゴリーの全体練習に

において担当コーチが施すが、ウエイト機器やマシンを使用した筋力トレーニングは、本チームに於いては「個人」にある程度任されている。そういった中で、専門的知識を要する個人メニューの作成までには至らないが、筋力トレーニング関係雑誌のトレーニングメニュー記事をカラーコピーしてラミネートをし、マシンルームや部室の壁などに掲示して、各個人の自主練習に役立つような環境づくりをしている。また、日常的にトレーニング場やマシンルームの整備や片づけについての啓発活動（ポスター貼付など）をしている。

報告会では、PPT を使用し、それまでの活動内容の報告と今後の計画（立ち幅跳び・キック力測定）や、マシン使用時の姿勢の改善点を指摘し実際の正しい姿勢をデモンストレーションにより示し、さらに理想に近いストレッチ姿勢のレクチャーを行った。また、「食事と栄養」をテーマに五大栄養素・バランスの取れた良い食事例・コンビニの有効利用・「カーボローディング」や試合期の食事例などを画像や挿絵・表を使い分かり易く説明プレゼンした。

### 〈キッズ＆ユースリーダー委員会（キッズコミット・障害者サッカー）の活動内容〉



～活動目的～

- ・JFA キッズリーダー・ライセンス取得
- ・ユースリーダー講習会の実施
- ・キッズサッカーの企画・運営
- ・知的障害者サッカー大会の運営補助
- ・千葉県協会（CFA）との情報交換・連絡調整
- ・関連小冊子の作成配布

～活動の実際～

JFA 公認キッズリーダー・ライセンスを部員全員が取得。「キッズコミット」という、地元のちびっ子を本校に集め、高校生が子供達を楽しませながらサッカーを教えるイベントの企画・運営・実技シミュレーションなどを主導しながらに（各学期に1回）活動している。また、知的障害者サッカー大会のユースリーダーとして、運営・審判・技術指導等の活動に（委員のみならず、ほとんどの選手が）参加している。

報告会では、PPT と映像を使用し、それまでの活動内容の報告と今後の改善計画等をプレゼンした。

### 〈エンヴァイロメンタル・プレパレーション委員会（環境整備）の活動内容〉



～活動目的～

- ・ピッチ内外の整備
- ・備用具の点検・管理
- ・部室の整備・点検・管理
- ・倉庫の整備・点検・管理
- ・ナイター施設の整備・点検・管理

※実際の作業については、その内容・委員会の判断により部員全員が関わる時もある

～活動の実際～

グラウンド整備用具の修理、ゴールネット、防球ネットの補修作業、トイレの自家製洗剤の作成…地道な活動を計画的に行っている。委員会ミーティングにおいて、目標を「習高をちょっとしたスタジアムに」と銘打ち、自らのアイデアを駆使しながら色々考えているようです。

報告会では、PPT を使用し、それまでの活動内容の報告と今後の改善計画、「ちょいスタ構想」をプレゼンした。

## 6. まとめ

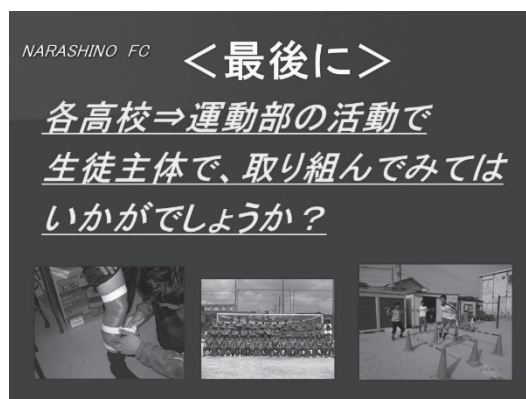
ご覧のように習志野高校サッカー部では、部内において生徒主体の専門委員会活動を、平成 25 年 12 月よりスタートさせて参りました。立ち上げてまだ 2 年経過しておりませんが、生徒は意外と面倒くさらず、楽しみながら活動しているようです。活動報告会においても、パソコン操作や映像処理・使用する音楽も彼等の“若い感性”が世に言う＝「いい感じ」に機能していると感心しております。

このような選手（生徒）による積極的な取り組みは、現時点では数値や目に見える根拠は示せませんが、彼らの物の観方やリーダー性・協調性を向上させ、サッカー競技に於いても洞察力・問題解決能力、ひいては戦術理解力（サッカー偏差値）をも伸ばしてくれるのではないかと期待しております。日頃サッカーでは、あまり目立たない選手でも、驚くほど積極的であったり、気が付かなかった才能の持ち主であったりすることも、多々あります。この子達は、もっともっと出来ると感じます。

自らやグループ活動の中で、意見を交換し、目標設定とその準備・実践・評価の過程を楽しむ姿勢や態度が身につく、課題・問題を自分達の力で解決し、もっと何か出来ないかとアイデアを駆使する姿勢は、まだまだ引き出せそうです。

習志野高校サッカー部では、“サッカーやるのは当たり前”“頑張るのも当たり前”、それ以外に、選手（生徒）個人やグループが協力し、アイデアを出し合い、主体的且つ有効に、そしていかにチームや地域のために貢献できるかを追求しながら活動しております。

全員加入の委員会活動ではありますが、サッカー選手育成＋ $\alpha$  の能力開発が出来たら素敵だとも考えます。こういった活動から、その興味関心が高まり、その道での選手以外のプロフェッショナルが誕生することも将来の楽しみと感じています。



私どもの試みや取り組みは、皆様にとってどこまで参考になるか分かりません。是非、各学校の部活動等で、生徒主体の活動を試みてはいかがでしょうか？

本校サッカー部よりも「質の高い」素晴らしい取り組みが、今後、全国の高校現場で行われる事をご祈念致しまして、今回の実践発表の結びとさせていただきます。

## 別紙

### NARASHINO FC 専門委員会の立ち上げについて

Meeting 2013,11,16

「サッカー」はプレーが1番楽しい。「プレーヤー」としてやるのが1番。

NARASHINOで「サッカー」をする。それは、ある意味「サッカー」を極めること。

大好きな「サッカー」を生涯に渡り、続ける、関わる…

「サッカー」を人生の素晴らしいパートナーとして愛し続ける。

だから、「サッカー」の魅力はプレーだけにとどまらない。

日本の「サッカー」を世界基準にし、「文化」として位置づけるためにも、ユース年代の我々が先駆けて、取り組むべき「課題」もあるはず…

人は、楽を選ぶ。しかし、世で言う「スーパーマルチ人間」はどうだ。持って生まれた才能もあるだろう…しかし、本当にそれだけか…? 様々な分野に興味を持ち、研究し実践する。

同じ24時間を有効に使い、それ相当の「努力」をしているに違いない。そう! 彼らの言葉の中に、「忙しいから出来ない・無理」などと言う言葉はない!

NARASHINOは「文武両道」である。普通の高校生に出来ないことをやっている。

やろうとしている。時間がないから勉強できない。文武両方やっているから勝てない…

言い訳・自己弁護・責任転嫁…それが一番カッコ悪い! そんな奴は千葉県 Top で通用しない。

なぜなら、他のライバルチームと環境・スタンスが違う! 他チームとの「差」をいかに埋めるのか? 多くの先輩たちがTRYして来た。

だから、あえて『もう1つの関わり』⇒『役割分担』に挑戦しよう!

大変だと思えば、大変。楽しいと思えば楽しい。心の持ち方次第!

時間をやり繰りして、みんなで協力して、色々工夫したら出来ない? まずやってみよう!

新たな「関わり」が必ず、選手としての「幅」・人間としての「大きさ」に繋がるはず…

本当の「サッカー」が見えてくる…「サッカー」に関わるのが「喜び」に繋がる…

それは、まさしく「For the Team」まさしく「NARASHINO FC」の発展に繋がる

『役割分担』⇒ 専門委員会を設立! →スタッフミーティング決定事項!

- 1) チーム・マネジメント委員会 (チーム統括)
- 2) レフェリング委員会 (審判)
- 3) テクニカル・スタディ委員会 (技術戦術)
- 4) メディカル・トレーナーズ委員会 (医科学)
- 5) フィジカル・トレーナーズ委員会 (フィジカル・トレーニング)
- 6) キッズ&ユースリーダー委員会 (キッズコミット & 障害者サッカー)
- 7) エンヴァイロメンタル・プレパレーション委員会 (環境整備)

以上 7委員会に全員が所属し、活動する。

季節的な活動・日常的な活動部署もあるが、基本的に学期に1回は活動(報告)

・チーム & 選手に対するサービス業務を行う。(TOP or B チーム or 1年とか、関係ない)

## NARASHINO FC 「専門委員会」業務内容

### 1) チーム・マネジメント委員会（チーム統括） …砂金

マネージャー・主将・副主将・学年代表 2 名で構成      TSG 以外のゲーム & チーム分析  
監督・コーチ・スタッフとの連絡調整・意見交換      計画表の作成  
選手ミーティングの実施      選手連絡網の作成配布      連絡指示系統の徹底

### 2) レフェリング委員会（審判） …石川

JFA 審判ライセンス取得（4 級→3 級→2 級……将来的に 1 級（J リーグ）・国際）  
ユース審判活動（練習試合・公式戦・ブロック予選）  
ルールに関する講習会の実施・ルールに関する小冊子の作成配布

### 3) テクニカル・スタディ委員会（TSG= 技術戦術） …小野寺

ゲーム分析（スカウティング技術の向上・VTR の作成）  
モチベーション VTR・卒業 VTR・ゴール集等の作成  
技術 & 戦術の研究      PC・VTR カメラ等の管理整備

### 4) メディカル・トレーナーズ委員会（医科学） …縄田

テーピング施術の研修（平素の施術）・応急処置の研修（平素の実践）  
サッカー医科学・メンタルトレーニングの研究・小冊子の作成配布      フィールドテストリーダー  
なのはな整骨院との連絡調整・情報収集交換

### 5) フィジカル・トレーナーズ委員会（フィジカル・トレーニング） …福田

フィジカル・トレーニングの研究      トレーニングの実践・計画表（チーム・個人）作成  
フィジカル・フィットネスに関する小冊子の作成配布  
トレーニング用具（フリーウエイト & マシンルーム）の管理・点検整備

### 6) キッズ&ユースリーダー委員会（キッズコミット & 障害者サッカー） …永村

JFA キッズリーダー・ライセンス取得      ユースリーダー講習会の実施  
キッズコミットの参加      キッズサッカーの企画・運営      障害者サッカーの参加  
千葉県協会（CFA）との情報交換・連絡調整      関連小冊子の作成配布

### 7) エンヴァイロメンタル・プレパレーション委員会（環境整備） …末永

ピッチ内外の整備      整備用具の点検・管理      部室の整備・点検・管理  
倉庫の整備・点検・管理      ナイター施設の整備・点検・管理  
※尚、作業については、作業内容・委員会の判断により部員全員が関わる時もある

☆リーダー性が高い者を各スタッフから指名する。その後、本人の希望を元に編成するが、能力 / 適性も考慮し、ある程度均等になるように調整する。各委員会 20 名前後で構成する。

# 第 50 回全国高等学校体育連盟研究大会 課題研究計画書

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                           |     |                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------------------------------|
| ふりがな                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | いさご しん                                                                                    | 所 属 | 千葉県高体連サッカー専門部<br>習志野市立習志野高等学校 教諭 |
| 申請者氏名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 砂 金 伸                                                                                     |     |                                  |
| 申請者連絡先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 学校 〒275-0001<br>千葉県習志野市東習志野 1-2-1<br>電話 047-472-2148 Fax 047-471-4581                     |     |                                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 千葉県高体連事務局 〒263-0043<br>千葉市稲毛区小仲台 5-10-1 千葉県立千葉女子高等学校内<br>電話 043-252-1691 Fax 043-252-1842 |     |                                  |
| 研究テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 一人ひとりの生徒が輝く運動部活動を求めて<br>― 部内専門委員会の立ち上げとその取り組み ―                                           |     |                                  |
| どのような課題に対応した研究であるか key word の形で示すこと                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                           |     |                                  |
| key word                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 部活動の意義、クラブマネジメント、スポーツの可能性、学校内外との連携、「する・観る・支える・調べる・伝える」                                    |     |                                  |
| 研究目的（何を、どこまで明らかにしようとするのか、焦点をしばり、具体的に記入すること。）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                           |     |                                  |
| <input type="checkbox"/> 下記のような意図を持ちながら日々取り組んだ実践を、学校運動部活動への取り組み事例として発表する。<br>・学校運動部活動の目的は人間形成である。大会での好成績は目標であって決して最終目的ではない。<br>・サッカー部活動を通じて人間的資質をいかに育成するかに課題をおき、生徒の自主性を尊重しながら各種の活動に挑戦させることで、個々の部員の様々な能力を導きだし、チームとクラブ全体の組織力を向上させる。<br>・役割分担のもとに行われる様々な取り組みがチームに貢献していることを評価し帰属意識を高めさせる。<br>・全員の英知を結集し取り組んだ結果、どれだけ目標に近づいたかを自己分析・評価させ、次のステップへのプランに活かす。<br>・これらの活動の繰り返しの中で、常に向上めざして改善していく PDCA の手法を身につけさせる。<br>・学校内外の人や組織の協力を得て諸活動を推進する中で、他者とのコミュニケーション能力を育成する。<br><input type="checkbox"/> 150 名超の部員を抱え、「強化」と「育成」両面を実現させるため、全部員を個々の適正に応じた 7 つの部内「専門委員会」に所属させ、趣旨に添った自主活動に取り組むなかで、個とチームとクラブの向上、スポーツの文化的価値を高めることを目指した取り組みを紹介し、部活動本来の活動目的を再確認したい。 |                                                                                           |     |                                  |
| 研究計画・方法（研究目的を達成するための研究計画と方法について研究経費との関連も含めて具体的に記入すること。）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                           |     |                                  |
| <input type="checkbox"/> 申請者が平成 24 年 3 月まで在職した県立八千代高校で 3 年間、試行・実践してきた取り組みを、平成 24 年 4 月から新たに赴任した習志野市立習志野高校で発展的に展開させた 2 年間活動記録を整理し、実践例として発表する。<br><input type="checkbox"/> 本年度、3 年間指導した卒業生が出ることもあり、3 年間在籍時の活動が卒業後どのように影響するかを、今後の追跡調査としても探っていく予定である。<br><input type="checkbox"/> この実践研究のための特別な経費はかかっていない。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                           |     |                                  |
| 研究の特色                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                           |     |                                  |
| ・これまでの部活動の固定観念を打ち崩したように見える取り組みだが、実は日頃から学校活動の中では常識的に行われていた活動であり、一種の「逆転の発想」であること。<br>・「強化」活動をトップレベルに維持しながら、「育成」「開発」にも焦点を置いて成果を上げた取り組みであること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                           |     |                                  |

# 平成 29（2017）年度・島根大会「課題研究」募集要項

## I. 課題研究の定義

「課題研究」は、「課題」そのものを自ら設定して取り組む研究です。対象となるのは、

- 1) 高体連が求め、また高体連として取り組むべき課題、
  - 2) 現行の分科会には含みにくい、あるいは分科会を横断する課題、
- であり、すべて公募によって受け付けます。

学校運動部や高体連が抱える問題は多種多様です。中には、「競技力の向上」「健康と安全」「部活動の活性化」という従来の 3 分科会の枠に収まらないものもたくさんあるでしょう。現場が抱える様々な問題の中から「課題」をピックアップして研究に取り組み、実践に基づく提言をしていただくことが高体連の研究に求められています。課題研究はそのようなニーズに対応して設けられました。

なお、ここでいう「課題」は、あらかじめ提示されたものの中から選択するのではなく、研究に取り組もうとする方で自身で設定してください。現場から、高体連全体にかかわる「課題」をピックアップし、現場にフィードバックすることを意図した研究です。

## II. 「課題研究」の進め方と発表

1. 平成 28（2016）年 11 月末までに、所定の「課題研究計画書」の書式にしたがって、研究計画を提出してください。提出先は、全国高体連研究部事務局です。
2. 提出された「課題研究計画書」は、平成 29（2017）年 1 月に審査し、原則として 2 件の研究が採択されます。
3. 「課題研究」として採択されたものは、平成 29（2017）年 8 月末までに一次原稿を提出してください。場合によっては、加筆・修正を求めることもあります。
4. 最終原稿の提出は、平成 29（2017）年 10 月末までをお願いします。
5. 平成 30（2018）年 1 月の島根大会では、開会式後の全体会で発表していただきます。発表時間は 30 ～ 40 分程度を予定しています。

## III. 研究奨励費

1. 「課題研究」として採択されると、研究奨励費として平成 29（2017）年 4 月に 10 万円が支給されます。研究奨励費は、研究の経費として使うことができます。アンケート調査の作成や郵送、調査に出かける交通費などとしてお使いいただけます。
2. 発表にかかる経費（旅費等）1 人分は、別途支給されます。

## IV. 「課題研究」の例

- ・ どんげかしたい宮崎県の部活動－顧問支援ハンドブックの作成と活用
- ・ 複数校合同運動部活動の成果と課題に関する研究
- ・ 運動部活動と社会人育成－「社会人基礎力」をはじめとする社会の考え方と運動部活動の方向性
- ・ 高体連活動に新しい価値を見出す広島風アプローチ－高校生レポーターキャラバンがつぐむスポーツコミュニティ
- ・ 北海道高体連主催大会参加者災害補償制度の導入の経緯と現状
- ・ 東日本大震災と宮城県高体連－“非日常”から見える可能性と課題
- ・ 東日本大震災と岩手県高体連－県総体総合開会式と北東北総体への取り組みをめぐって
- ・ 運動部活動顧問を取り巻く現状と課題：東海 4 県の顧問意識調査から見えること
- ・ 一人ひとりの生徒が輝く運動部活動を求めて

# アトラクション

## 宮城県農業高等学校和太鼓部

宮城県農業高等学校は、明治8年開所の植物試験場を前身とし、明治18年7月に宮城県農学校として文部省認可を受け、今年創立130年を迎える日本最古の農業高校です。

現在は、農業園芸科、生活科、食品化学科、農業機械科の4学科を有し、『自啓』＝「自らの力で自らの道をひらく」を校訓として、卒業生2万余名を送出し、地域農業の先駆者のみならず、産業・経済・教育・地方自治や国政等の各界で活躍する人材を輩出する文武両道の高等学校です。しかし、平成23年3月甚大な被害をもたらした東日本大震災により校舎、農場など多くの物を失いました。

宮城県農業高校和太鼓部は、平成23年10月に行われた復校祭で友情出演していただいた村山農高又新連。また同年11月に行われた全国農業高校収穫祭で演奏された都立農芸高校の三宅太鼓。さらには地元閑上太鼓などの力強い音色に刺激を受け、「宮農復興太鼓」の発足へ動き出しました。太鼓購入予算、指導者、練習場所、生徒会の承認など多くの課題が山積みする中、「宮農生を元気にしたい。」「地域に根ざした農業高校として仙台平野の農業復興の一助になりたい。」との思いが多くの方々のご理解ご支援を得ることができ、震災の翌年、平成24年4月より和太鼓愛好会としてスタートしました。積極的に地域イベントや各団体イベントで「宮農復興太鼓」演奏を行い、その活動が認められ平成26年4月に和太鼓部へと昇格しました。現在、私たち和太鼓部は、学校行事はもとより各地域のイベントに「宮農復興太鼓」として参加し、「感謝の気持ち」を大切に、太鼓の力で地域を元気にする応援団として日々練習に励み活動を行っています。



## 演 奏 曲

---

### 「 秩父屋台囃子 」

(宮城県農業高校用アレンジバージョン：2年生演奏)

四方を山々にかこまれている秩父地方（埼玉県秩父市及び秩父郡）は、山間部のため稲作は不向きであったが、江戸時代より養蚕が盛んに行われるようになり、絹織物の集散地として発展し、祭りには豪華な屋台(山車)と笠鉦が作られました。今日、全国的に有名になった秩父市の秩父夜祭は、秩父神社の例大祭として毎年12月3日に行われています。4基の屋台と2基の笠鉦意が曳行され、神楽殿などで演じられる神楽とあわせて「秩父祭の屋台行事と神楽」が1979年国の重要無形民族文化財に指定されています。囃子の太鼓は、天井が低く空間の狭い屋台内部で演奏するため、座奏という独特な構えの打法で、テンポが速く、大太鼓は棍棒のような先太のバチで打つ熱のこもった囃子が特徴です。

### 「 絆（きずな） 」

(宮城県農業高校オリジナル曲：1年生演奏)

震災により多くの方々にご支援と地域関係各位のご協力により、演奏する場を提供していただき、宮城県農業高等学校和太鼓部はこれまで活動を行って参りました。その中で我々が得たものは、我々を見守ってくださった多くの方々との「絆」の大切さです。

絆の意味をひもとくと、元々は、犬、馬、鷹などの家畜を立木につないでおくための縄とあり、転じて、「人と人との結びつき」、「支え合いや助け合い」を指すようになったと言われています。我々農業を学ぶものにとって深く関係した言葉でもあります。

「絆」は、和太鼓部にとって「宮農復興太鼓」発足の歩みを忘れず、未来につながる新しい生徒・地域との大切な「絆」を長胴太鼓・締太鼓の力強さの中に縁打ちの軽快な音色、全身を使った振りで新生宮農・宮農和太鼓部の新たな伝統を表現いたします。

### 「 笑顔（えがお） 」

(宮城県農業高校オリジナル曲：1、2年生演奏)

宮城県農業高等学校は、平成23年3月甚大な被害をもたらした東日本大震災で校舎、農場など多くの物を失いました。しかし、廃墟の中から多くの方々のご支援により復旧、復興して参りました。その原動力は、笑顔の力でありました。当部師範であります田中政明先生には、その想いを込めて作って頂いた曲が「笑顔」であり、「和太鼓の力で被災地の方々に笑顔にする応援団」また、「宮農を元気にする応援団」として、和太鼓の素朴で勇壮な音色に託し、力強さと優しさを込めて叩き上げます。